

## 火伏せ

これらの石碑は、名振湾の港の両側に立っています。それぞれ三つの大きな石が並べられているこれらの碑は、1781年に起こった大火事後、火災を払うために建てられました。「hibuse」とは日本語で「防火」という意味です。

この大火事によって、重要無形民俗文化財に指定されている「火伏祭り」と呼ばれる行事が毎年1月24日に開催されるようになりました。この行事は、起こりうる災害に備えて警戒するための訓戒でもありますが、楽しむための機会でもあります。「おめつき」と呼ばれるいたずらっぽい即興劇の上演や、色とりどりの大きな山車の巡行が行われます。2011年の東日本大震災の後、この祭りは復興の象徴として地域社会にとってさらに重要なものになりました。